

教育研究業績書

2018年05月14日

所属：食物栄養学科

資格：助教

氏名：武内 海歌

研究分野	研究内容のキーワード
臨床栄養学	肺結核、栄養サポートステーション
学位	最終学歴
博士（食物栄養学）	平成26年3月武庫川女子大学大学院生活環境学研究科食物栄養学専攻 博士後期課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 武庫川女子大学の研究室所属学生、大学院生に対する助言および指導	2012年04月～現在	所属研究室の学部生、大学院生に対して統計講義を行った。また、卒業論文や修士論文作成における助言と指導も実施。
2. 栄養サポートステーションにおける外来糖尿病患者の栄養食事支援の補助	2011年4月～現在	大学近隣の開業医や大学病院と連携し、外来栄養相談が必要な方を紹介頂き、研究室の教職員、院生、学部生と共に患者の栄養支援を行っている。臨床栄養学実習だけでなく生きた教育を実施している。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 臨地実習生に対する指導	2012年4月2014年3月	武庫川女子大学や他大学の臨地実習生に対して、献立作成や食数管理について説明した。
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 管理栄養士	2009年6月	登録番号 146602
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 管理栄養士養成大学による在宅栄養サポート活動報告－軽度認知障害合併の独居高齢2型糖尿病患者の1症例－	2018年02月25日	第34回兵庫県栄養改善研究発表会において栄養サポートステーションの活動報告として症例発表を実施。4年にわたりサポートし認知度が顕著に低下せず、独居高齢者を行政手続きへ導くことができたことは成果である。しかし、管理栄養士養成大学による在宅サポート活動には限界があることも明白である。 武内海歌、鞍田三貴
2. 若年女性のやせ警告媒体視聴後の意識変化について	2017年02月26日	第33回兵庫県栄養改善研究発表会にて発表した。やせ警告媒体DVD視聴後も「やせたい」と回答した者は約6割存在し、標準的な体格である者ほど、食行動の異常性（代理摂食、満腹感覚、体質に関する認識）がみられた。現代の若年女性は、やせ警告だけでは体格に対する意識の変化は困難であり、他のアプローチが必要である。 武内海歌、鞍田三貴
3. 徳島大学糖尿病臨床・研究開発センターとの共同研究	2014年04月2015年05月	糖尿病患者への1日1回の食事介入による代謝改善効果の検討において、解析補助を行った。
4. 大阪大学歯学部附属病院との共同研究	2012年09月2014年03月	若年成人女性の食生活パターンと体組成との関係を検討した。 2014年肥満学会にてポスター発表を実施。
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 初回治療肺結核患者の入院時栄養評価及び早期排菌陰性化を予測する入院時栄養因子の検討（博士論文）	単	2014年03月		初回治療肺結核患者の栄養状態を把握（研究Ⅰ）、栄養状態と陰転化の関係（研究Ⅱ）、陰転化を規定する栄養因子（研究Ⅲ）を検討した。研究Ⅰ：入院時血清Alb3.0未満は全体の18%にみられ、高齢でBMIなどの栄養指標や食事摂取率が低値であった。研究Ⅱ：陰転化と栄養指標の関係は、Alb値、PNI、CRP、BMI

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
				に関係がみられた。研究Ⅲ：Alb値、PNIは50歳未満で、CRP、BMIは50歳以上で陰転化と関係がみられたから50歳を境に若年者と高齢者の陰転化を規定する栄養因子は異なることが考えられ、結核発症年齢分布が影響している可能性が示唆される。
3 学術論文				
1. Associations of postprandial lipemia with trunk/leg fat ratio in young normal weight women independently of fat mass and insulin resistance (査読付)	共	2018年02月	Asia Pac J Clin Nutr. 2018;27(2):293-299	腹部脂肪蓄積マーカーである体幹下肢脂肪比は、正常体重でインスリン感受性の若年女性でさえ、食後の高脂血症などが危険因子であった。 Mika Takeuchi, Ayaka Tsuboi, Miki Kurata, Tsutomu Kazumi, Keisuke Fukuo
2. The Cluster of Abnormalities Related to Metabolic Syndrome Is Associated With Reduced Glomerular Filtration Rate and Raised Albuminuria in Patients With Type 2 Diabetes Mellitus. (査読付)	共	2017年05月25日	J Clin Med Res. 2017 Sep;9(9):759-764. doi: 10.14740/jocmr3097w. Epub 2017 Jul 27.	メタボを有する日本人の2型糖尿病患者はアルブミン尿症のより高い罹患率だけでなく、腎機能が低下し、CKDが上昇するだけでなく、尿中のACRおよびeGFRも対応して変化する。 Kurata Miki, Takenouchi Akiko, Tsuboi Ayaka, Minato Satomi, Takeuchi Mika, Kitaoka Kaori, Fukuo Keisuke, Kazumi Tsutomu.
3. Post-Prandial Plasma Glucose Less Than or Equal to 70 mg/dL Is Not Uncommon in Young Japanese Women(査読付).	共	2017年05月10日	J Clin Med Res. 2017;9(8):680-686	食後のPG \leq 70mg / dLは、若年の正常体重の日本人女性では稀ではなく、病的状態ではない可能性がある。この知見の根底にあるメカニズムは、さらなる探究を必要とする。 Ayaka Tsuboi, Mika Takeuchi, Kaori Kitaoka, Satomi Minato, Miki Kurata, Tsutomu Kazumi, Keisuke Fukuo
4. Increased Adipose and Muscle Insulin Sensitivity Without Changes in Serum Adiponectin in Young Female Collegiate Athletes. (査読付)	共	2017年03月20日	METABOLIC SYNDROME AND RELATED DISORDERS Volume 15, Number 5, 2017 246-251	耐久性トレーニングは、正常な体重の日本の若年女性でさえ循環アディポネクチンの変化なしに、脂肪組織および骨格筋におけるインスリン感受性の増加と関連していた。 Kitaoka K, Takeuchi M, Tsuboi A, Minato S, Kurata M, Tanaka S, Kazumi T, Fukuo K.
5. Association of cystatin c with leptin and TNF- α in elderly Japanese women (査読付)	共	2015年12月	Asia Pacific J Clin Nutr 2015;24(4):626-632	高齢日本人女性159名において、レプチンとTNF- α はシスタチンCとは独立して、腎機能、脂肪量、インスリン抵抗性及び炎症の上昇に関連していた。 Ayaka Tsuboi, Mika Takeuchi, Mayu Terazawa-Watanabe, Keisuke Fukuo, Tsutomu Kazumi
6. The impact of nutritional state on the duration of sputum positivity of Mycobacterium tuberculosis(査読付)	共	2015年11月	INT J TUBERC LUNG DIS 2015 Volume 19 Number 11, 1369-1375 (7)	排菌陰性化日数の延長 (TN) に関連する因子を抽出する。単変量よりTNは、性別、BMI、白血球、血清アルブミン、空腹時血糖、HbA1c、CRP、TC、喀痰塗抹陽性と関連していた。多変量よりBMI、白血球、喀痰塗抹陽性がTN延長に重要な危険因子であった。結核患者の栄養状態はTNを予測に使用できる。 Hatsuda Kazuyoshi, Takeuchi Mika, Ogata Kanako, Sasaki Yumiko, Kagawa Tomoko, Nakatsuji Haruka, Ibaraki Madoka, Sakaguchi Mitsuhiro, Kurata Miki, Hayashi Seiji
7. Association of Metabolic Syndrome with Serum Adipokines in Community-Living Elderly Japanese Women Independent Association with Plasminogen Activator-Inhibitor-1 (査読付)	共	2015年11月	METABOLIC SYNDROME AND RELATED DISORDERS Volume 13, Number 9, 2015 415-421	地域高齢日本人女性159名では、メタボの有無と構成数ともに、高インスリン抵抗性、レプチン高値、PAI-1高値、TNF- α 高値で、LPL低値、アディポネクチン低値であった。しかし、高感度CRPとIL-6とは無関係であった。PAI-1高値は、肥満症がまれな高齢者の日本人女性において、インスリン抵抗性と体脂肪量とは独立してメタボと関連していた。 Mika Takeuchi, Ayaka Tsuboi, Miki Kurata, Keisuke Fukuo, Tsutomu Kazumi
8. Association of Metabolic Syndrome with Chronic Kidney Disease in Elderly Japanese Women: Comparison by Estimation of Glomerular Filtration Rate from Creatinine, Cystatin C, and Both (査読付)	共	2015年11月	METABOLIC SYNDROME AND RELATED DISORDERS Volume 14, Number 1, 2015 40-45	地域高齢日本人女性における慢性腎臓病とメタボリックシンドロームの関係：クレアチニンから糸球体濾過率の推定とシスタチンC両方による比較。 高齢日本人女性159名においてCKDの有病率は、実質的な式によって変化した (CrベースのeGFRよりもシスタチンCベースのeGFRが高率)。非肥満の高齢日本人女性では、メタボの有無と成数の両方がCKDの高い有病率と関連し、血圧の上昇は、これらの関連に重要な役割を果たしている可能性がある。 Miki Kurata, Ayaka Tsuboi, Mika Takeuchi, Keisuke Fukuo, and Tsutomu Kazumi,
9. Low hemoglobin levels contribute to low grip strength independent of low-grade inflammation in community-living elderly women (査読付)	共	2015年03月	Asia Pac J Clin Nutr 2015;24(3):444-451	高齢日本人女性202名を対象に、握力と筋力の低下に関連する多くの要因の相関関係を調べた。低ヘモグロビンは年齢、身体測定、栄養、炎症マーカーとは独立して低筋力に寄与している可能性がある。日本人高齢女性において握力と機能低下の関連に重要な交絡因子かもしれない。 Eriko Yamada, Mika Takeuchi, Miki Kurata, Ayaka Tsuboi, Tsutomu Kazumi, Keisuke Fukuo
10. Association of pulse pressure with serum TNF- α and Neutrophil count in the elderly(査読付)	共	2014年05月	Journal of Diabetes Research Volume 2014, 7pages	地域在住の高齢日本人女性150名のうち高血圧を有する79名を対象とした。TNF- α 高値、高インスリン抵抗性、好中球高値は、脈圧高値と独立した関係性が

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
11. The impact of nutrition and glucose intolerance on tuberculosis development in Japan. (査読付)	共	2014年01月	http://dx.doi.org/10.1155/2014/972431 The International Journal of Tuberculosis and Lung Disease, 2014:18(5)84-88	あり、インスリン抵抗性や慢性的な軽度の炎症は、部分的に脈圧高値と2型糖尿病との関連が示唆された。 Eriko Yamada <u>Mika Takeuchi</u> Miki Kurata Tsutomu Kazumi and Keisuke Fukuo
12. 初回治療肺結核患者の排菌陰性化遅延を予測する入院時栄養因子の検討 (査読付)	共	2013年10月	日本結核病学会誌, 2013: 88 (10) 697-702	排菌陰性化遅延を予測する入院時栄養因子を単変量及び多変量で検討した。単変量では男性、入院時体格 (BMI) 18.5未満、血清アルブミン3.0以下、c反応性たんぱく (CRP) 0.3以上、HbA1c (NGSP) 6.5%以上、日本人の食事摂取基準に対するエネルギー摂取率 (RDA%エネルギー) 87%、喀痰塗抹2+~3+であった。多変量では入院時HbA1c (NGSP)、CRP、BMIが抽出され、入院時栄養因子ではこれらの指標で陰性化遅延を予測できる可能性が示唆された。 武内海歌、鞍田三貴、林清二
13. 肺結核患者の入院時栄養評価 (第1報) (査読付)	共	2013年05月	日本静脈経腸栄養学会誌, 2013: 28 (3) 131-136.	肺結核患者374名を対象に、入院時栄養状態及び食事摂取状況、栄養補給法を入院時血清アルブミン (Alb) 値別に検討した。Alb3.0g/dL未満は20%であった。3.0g/dL未満患者は他の栄養指標も低値を示した。また、日本人の食事摂取基準に対する食事摂取率は50%であった。過去の報告から20年が経過し、NSTが普及した現在においても栄養不良患者の割合に変化はなかった。結核は栄養サポートが必要な疾患であることが明らかとなった。 武内海歌、鞍田三貴、中野可奈子、中山環、大石幸男、林清二
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. 若年女性において食後TG代謝動態は腹部脂肪蓄積と相関する	共	2015年10月31日	第20回兵庫生活習慣病懇話会	女性では空腹時TGよりも食後TGが、より強力な心疾患のリスクである体脂肪量と体脂肪分布、血清アディポカインが食後TG代謝動態に関連するか否かを若年女性において検討した。腹囲が74cmの若年女性においても、腹部肥満の指標である体幹/下肢脂肪比が食後TG代謝動態と強く相関した。経年による腹囲の増加は最小限に止める努力が必要であろう。 武内海歌、坪井彩加、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏
2. 学会発表				
1. 武庫川女子大学栄養科学研究所栄養サポートステーション取組紹介	共	2018年04月29日	日本在学医学会第20回記念大会	本学会にて本学研究所の栄養サポートステーションの取り組みをポスター掲示にて発表した。 武内海歌、鞍田三貴
2. 頭頸部がん患者の術前栄養状態評価法の検討	共	2018年02月23日	第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会	SGAは短時間評価が可能である。頭頸部がん患者においては術前のSGA評価が術後合併症発生を予測できる可能性が示唆された。 吉村知夏、北野睦三、竹村亜希子、北村亜紀子、武内海歌、鞍田三貴
3. 非アルコール性脂肪性肝疾患の栄養状態と食生活の特徴	共	2017年10月14日	第39回日本臨床栄養学会総会 第38回日本臨床栄養協会総会 第15回大連合大会	NAFLDはメタボリックシンドロームの肝病変であると捉えられ、血清尿酸値が高値であり、インスリン抵抗性、低亜鉛が見られた。亜鉛には抗酸化作用があり、肝線維化予防に重要な役割をもつため、血清亜鉛濃度低値に至る食事をさらに分析するとともに、亜鉛補充を中心とした食事療法の確立を目指したい。 田村彩乃、武内海歌、福尾恵介、榎本平之、西口修平、鞍田三貴
4. 地域在住高齢女性で身体的フレイルの重要な要素である筋力低下はアディポネクチン (ADP) 高値と関連する	共	2017年10月13日	第39回日本臨床栄養学会総会 第38回日本臨床栄養協会総会 第15回大連合大会 (シンポジウムS3-3)	ADP高値の地域在住高齢女性ではメタボ関連指標は良好であったがADP高値は握力低下のリスクであった。骨格筋量減少の超低頻度の原因として、筋力減少の先行あるいは不適切な基準値設定が想定される。 鞍田三貴、武内海歌、坪井彩加、竹ノ内明子、湊聡美、北岡かおり、鹿住敏、福尾恵介
5. 心不全患者の入院時スクリーニング法としてのSGAとODAの乖離症例について	共	2017年10月13日	第39回日本臨床栄養学会総会 第38回日本臨床栄養協会総会 第15回大連合大会	SGAとODAの乖離症例はわずかであった。乖離を認めた症例を在院日数で検討すると、SGAが栄養評価に有用であることが示唆された。 岡村春菜、笹部麻美、長島有花、木戸里佳、民田浩一、武内海歌、鞍田三貴
6. 朝食60分後血糖が空腹時血糖より低い若い女性のインスリン分泌とアポ蛋白A1は高く、NEFAは低い	共	2017年10月13日	第39回日本臨床栄養学会総会 第38回日本臨床栄養協会総会 第15	若い正常体重の日本人女性の食後血糖動態には、早期インスリン分泌が深く関与し、インスリン抵抗性 (NEFA低値) の関与も示唆された。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
7. 薬剤・食物アレルギーを有する下咽頭喉頭頸部食道全摘出術 (TPLE) 後患者において成分栄養剤の半固形成を試みた1症例	共	2017年07月07日	回大連合大会 第54回日本外科代謝栄養学会	武内海歌、坪井彩加、竹ノ内明子、湊聡美、北岡かおり、鞍田三貴、鹿住敏、福尾恵介 アレルギー除去粉ミルク、REF-P1 (R)を添加することで成分栄養剤の半固形成が可能であり、下痢や逆流、長時間投与による精神的負担の軽減、アバンド併用により栄養状態維持に有用であった。 吉村知夏、北野睦三、竹村亜希子、北村亜紀子、武内海歌、鞍田三貴 (代理発表：武内海歌)
8. メタボリックシンドローム (MS) の構成因子数が増加すると糖尿模湯におけるCKD(糖尿病腎臓病、DKD)は悪化する	共	2017年05月27日	兵庫生活習慣病懇話会2017	竹之内明子、坪井彩加、湊聡美、北岡かおり、武内海歌、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏
9. メタボリック症候群 (MS) 合併2型糖尿病の朝食後血糖 (PPG), TG (PTG) とnon-HDL-C (NHDLC) は高い	共	2017年05月20日	第60回日本糖尿病学会	PPG, PTG, NHDLCとMSとの関連を検討した結果、MS合併2型糖尿病では1年間のPPG, PTG, NHDLCが高い。 湊聡美、竹之内明子、坪井彩加、北岡かおり、武内海歌、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏
10. 2型糖尿病においてHbA1c と収縮期血圧 (SBP) の年間の変動はメタボリックシンドローム (MS) 構成因子数と関連する	共	2017年05月20日	第60回日本糖尿病学会	SBPとHbA1cの長期変動とMSの関連を検討した結果、2型糖尿病におけるMSと心血管疾患の関連の一部をHbA1cとSBPの変動が担っている可能性が示唆された。 北岡かおり、竹之内明子、坪井彩加、湊聡美、武内海歌、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏
11. 高齢女性でアディポネクチン (ADP) 高値は、炎症、インスリン抵抗性とは独立して、握力低下 (<18kg) と関連した	共	2017年05月19日	第60回日本糖尿病学会	高齢女性でADPと糖・脂質代謝、握力との関連を検討した結果、ADP高値の高齢女性の代謝状態は良好であったが低握力であった。 武内海歌、坪井彩加、竹之内明子、湊聡美、北岡かおり、鞍田三貴、鹿住敏、福尾恵介
12. 75gOGTT 負荷後血糖 \leq 70 mg/dLの若い女性ではアディポネクチン (ADP) が高くオロゾムコイド (ORM) が低い	共	2017年05月18日	第60回日本糖尿病学会	75gOGTT負荷後血糖 \leq 70 mg/dLの特徴を検討した結果、OGTT負荷後血糖 \leq 70 mg/dLではADPが高く、ORMが低かった。 坪井彩加、竹之内明子、湊聡美、北岡かおり、武内海歌、鞍田三貴、芳野原、鹿住敏、福尾恵介
13. メタボリックシンドローム (MS) の構成因子数が増加すると糖尿病におけるCKD (糖尿病腎臓病、DKD) は悪化する	共	2017年05月18日	第60回日本糖尿病学会	DKDの悪化とMSの関連を前向きに検討した結果、2型糖尿病においてMSの構成因子数の増加に伴ってDKDの6年間の悪化率も増加した。 竹之内明子、坪井彩加、武内海歌、湊聡美、北岡かおり、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏
14. 若い女性でオロゾムコイド (ORM, 別名 α 1酸性糖蛋白) は75gOGTTの30分後血糖と血糖曲線下面積に強く相関する	共	2017年05月18日	第60回日本糖尿病学会	20歳の女性168人において体組成はDXAで測定し、OGTTを施行した結果、ORMは30分後血糖、血糖曲線下面積と強く相関した。 鹿住敏、坪井彩加、竹ノ内明子、湊聡美、北岡かおり、武内海歌、鞍田三貴、芳野原、福尾恵介
15. 心不全患者に対する栄養スクリーニング法の検討	共	2017年02月25日	第2回日本心臓リハビリテーション学会 近畿地方会	SGAは客観的指標を用いず主観による評価であるが、低血清Alb患者を見出せる上、全ての患者を評価できる。 岡村春菜、笹部麻美、長嶋有花、木戸里佳、民田浩一、武内海歌、鞍田三貴
16. 高齢血液透析患者の短期生命予後を決定するGNRIカットオフ値の検討	共	2017年02月23日	第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会	HD患者のGNRIカットオフ値は92であるが、65歳以上の高齢HD患者の短期生命予後を予測する導入時のGNRIカットオフ値は83.1であり、92を用いると短期予後に影響する栄養障害を見落とし可能性がある。 尾上明徳、本庄裕美、谷木優子、岩崎寮子、馬見塚武子、重松武史、西庵良彦、宮本孝、武内海歌、鞍田三貴
17. 管理栄養士による在宅訪問が血糖管理に有効であった軽度認知障害合併2型糖尿病の一例	共	2016年11月2日	第53回日本糖尿病学会 近畿地方会/第52回日本糖尿病協会近畿地方会	軽度認知障害合併・2型糖尿病の血糖管理に、かかりつけ医と連携した管理栄養士による在宅訪問が有効である可能性が示唆された。 尾上明徳 武内海歌 鞍田三貴 倭英司 鈴木淳一 鹿住敏 福尾恵介 (代理発表：武内海歌)
18. 非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) 患者の発がん予防に向けた栄養管理	共	2016年10月9日	第38回日本臨床栄養学会/第37回日本臨床栄養協会/第14回連合大会(ワグショップ)	2016年1月から現在までに兵庫医科大学病院外来通院患者で同意を得て調査を実施し23 (男11/女12) 症例についての食生活の特徴を報告する。 鞍田三貴 田村彩乃 武内海歌 福尾恵介 榎本平之 西口修平
19. 運動訓練はアディポネクチンとは独立して若い女性の脂肪組織のインスリン感受性を亢進させる	共	2016年10月9日	第38回日本臨床栄養学会/第37回日本臨床栄養協会/第14回連合大会	脂肪量と脂肪分布、脂肪組織のインスリン抵抗性、血清アディポカインを若い女性アスリート (A、運動クラブの学生) と非アスリート (NA、栄養学科学生) で比較した。腹部脂肪蓄積の少ない若い女性アスリートにおいて、アディポネクチンとは独立した脂肪組織のインスリン感受性の亢進が見られた。 岡村春菜 武内海歌 鞍田三貴 鹿住敏 福尾恵介
20. 栄養量および食形態低下患者への早期栄養介入効果	共	2016年10月9日	第38回日本臨床栄養学会/第37回日本臨床栄養協会/第14回連合大会	必要量を満たせない食事箋が出された時点で管理栄養士が介入した場合の効果について検討する。負の食事箋発行患者の約半数は入院時診療計画で栄養管理は不要と判断されており、負の食事箋発行時点で、管理栄養士が適切な栄養管理を行うことにより入

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
21. 高齢透析患者の導入時の栄養状態と生命予後の関連性	共	2016年10月09日	第38回日本臨床栄養学総会/第37回日本臨床栄養協会総会/第14回大連合大会	院中の褥瘡発生率および在院日数、転帰に影響を及ぼす可能性が示唆される。 加地真梨 山本亜衣子 南有紀子 尾上明穂 武内海歌 鞍田三貴 透析導入時点で短期間（5年以内）の生命予後に影響を与える因子を検討することを目的とした。2群間の導入時の年齢に差はなかった。BMI (DW)は両群に差は見られず、血清リン値、血清カリウム値が死亡群で低値であり、高齢者の透析導入時においてリンやカリウムの摂取量の指導を再考する必要性が示唆された。また、導入時のGNRIが生命予後に影響を与える因子であったことより、栄養状態が透析患者の短期間の生命予後に影響することが明らかとなった。 尾上明穂 本庄裕美 谷木優子 岩崎寮子 馬見塚武子 重松武史 西庵良彦 宮本孝 武内海歌 鞍田三貴
22. 回復期リハビリテーション病院における短期ADLの改善と栄養摂取量との関係	共	2016年10月08日	第38回日本臨床栄養学総会/第37回日本臨床栄養協会総会/第14回大連合大会	栄養摂取量が、リハビリテーション（リハ）による短期ADLに関与するかを明らかにする。入院時A1bやFIMの値に関わらず、ADLの改善には積極的な栄養介入が必要であり、短期ADLの改善に、たんぱく質が関与することが明らかとなった。 川村祐 脇田あやの 田和侑奈 桜井史明 箱田真知子 久米真由 合田文則 橋本康子 武内海歌 鞍田三貴
23. ICU入院の心臓血管疾患患者に対する栄養スクリーニング法の検討	共	2016年10月08日	第38回日本臨床栄養学総会/第37回日本臨床栄養協会総会/第14回大連合大会	心臓血管疾患患者のICU在室日数、および入院日数に関連する入院時栄養スクリーニング法（SGA）を検討する。SGAによる栄養評価はICU在室日数、入院日数と関連していた。SGAは主観的評価法であり血液検査を必要とせず、心臓血管疾患患者のICU入院時のスクリーニング法になり得る可能性が示唆された。 笹部麻美 長島有花 木戸里佳 民田浩一 岡村春菜 武内海歌 鞍田三貴
24. 在宅訪問で血糖コントロールの改善と認知機能の進行抑制が可能であった独居高齢2型糖尿病患者の1症例	共	2016年10月08日	第38回日本臨床栄養学総会/第37回日本臨床栄養協会総会/第14回大連合大会	在宅訪問により血糖コントロールが良好となった軽度認知症高齢患者1症例を報告する。6年前に独居となった77歳（女性）徒歩範囲内でもタクシーを使用し、服薬も定かでなく、言動は辻褃が合わない。初回のHDS-Rは21点、軽度の認知症、肥満のサルコペニアと評価された。学生と共に2週間に1度自宅訪問を試み、公園へ散歩、軽い体操を取り入れた。かかりつけ医と協議の上、服薬内容を見直し簡素化した。NSSによる継続的な栄養支援は、長期的な血糖コントロールと認知症の進行抑制が可能である。 武内海歌 鈴木淳一 鞍田三貴 倭英司 鹿住敏
25. 在宅訪問により糖尿病と認知症進行予防が可能であった独居高齢者1症例～開業医と大学の連携～	共	2016年06月26日	第4回日本在宅栄養管理学会	在宅訪問により血糖コントロールが良好となった軽度認知症高齢患者1症例を報告。NSSによる継続的な栄養支援により、認知症の進行予防と長期的な血糖コントロールが可能である。 鞍田三貴 武内海歌 倭英司 鹿住敏
26. 腹囲が72cmの若い女性でも体幹/下肢・脂肪比とhsCRPが、インスリン抵抗性とは独立して、血清PAI-1と関連する	共	2016年05月21日	第59回日本糖尿病学会学術集会	血清PAI-1はメタボリックシンドロームの多くの構成因子と関連し、心血管疾患の発症とも関連するが、その報告は中高年での成績である。腹囲72cmの女子大学生468名においても、体幹/下肢脂肪比、hsCRP、インスリン抵抗性と独立して、PAI-1と関連した。中高年の成績と同様の結果が得られた。 武内海歌 坪井 彩加 鞍田 三貴 鹿住 敏 福尾 恵介
27. 若い女性の約半数で朝食後に無自覚低血糖（70mg/dl以下）	共	2016年05月14日	第21回兵庫生活習慣病懇話会	坪井彩加、武内海歌、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏
28. 栄養量および食形態低下患者への早期栄養介入効果	共	2016年02月26日	第31回日本静脈経腸栄養学会	入院中の食事に対して必要量を満たせない食事箋が出された時点で管理栄養士が介入した場合の効果について検討した。負の食事箋を発行された時点で管理栄養士が適切な栄養管理を行うことにより、在院日数及び転帰に影響を及ぼす可能性が示唆された。 加地真梨、山本亜衣子、南有紀子、小野正代、尾上明穂、武内海歌、鞍田三貴
29. オリジナル栄養摂取量調査法（QC/NQ）の妥当性の検討 24時間蓄尿とFFQとの比較	共	2016年02月25日	第31回日本静脈経腸栄養学会	限られた栄養指導中に食事摂取量を瞬時に把握できるオリジナル栄養摂取量評価表（QC/NQ）を開発、その妥当性を検討した。QC/NQによるたんぱく質と食塩摂取量の評価は、24時間蓄尿から求めた客観的数値に近似値であり予測精度も高かった。栄養指導中に摂取量を評価するツールとして活用できる可能性が示唆された。 武内海歌、木戸里佳、鞍田三貴
30. 若年女性において食後TG代謝動態は腹部脂肪蓄積と関連する	共	2016年01月10日	第19回日本病態栄養学会	平均年齢22歳の女子大学生35名を対象に、テストミール摂取後の食後TG代謝動態（TG-AUC）が体脂肪量、血清アディポカインに関連するかを検討した。腹部肥満の指標である体幹下肢脂肪比がTG-AUCと強く関連した。経年による腹囲増加は最小限に努める必

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
31. 若年女性の食後代謝動態に対する運動の影響；テストミールAによる食事負荷試験を用いて	共	2015年10月04日	第37回日本臨床栄養学会総会/第36回日本臨床栄養協会総会 第13回大連合大会	要がある。 武内海歌、坪井彩加、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏 動脈硬化の引き金である食後代謝異常は運動により改善する。食後代謝動態に対する運動の影響を若年女性において検討した。運動選手のインスリン感受性は非常に良好であったが、テストミールAに対する血糖とTGの反応は健康な若年女性では比較的小さく、日ごろの激しい運動の影響も限局的であった。武内海歌、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏
32. 栄養量および食形態低下の食事指示を受けた患者への管理栄養士介入効果の検討	共	2015年10月03日	第37回日本臨床栄養学会総会/第36回日本臨床栄養協会総会 第13回大連合大会	入院中に栄養量が明らかに減少する食事箋が出された時点で管理栄養士が介入した場合の効果を検討。介入群、従来群はランダム割り付け群分けした。負の食事箋発行患者の約半数は入院時診療計画で栄養管理は不要と判断されており、負の食事箋発行時点で、管理栄養士が適切な栄養管理を行うことにより栄養改善に寄与する可能性が考えられた。 加地真梨、山本亜衣子、南有紀子、武内海歌、鞍田三貴
33. オリジナル栄養摂取量調査法 (QC/NQ) の妥当性の検討	共	2015年10月03日	第37回日本臨床栄養学会総会/第36回日本臨床栄養協会総会 第13回大連合大会	個人の栄養摂取量は栄養指導の際に必須のアセスメント指標であるにもかかわらず、評価に時間を要することや、患者の負担が問題であり、栄養指導中、瞬時に評価する方法は皆無である。今回我々は、オリジナル栄養摂取量調査法 (Questionnaire Calculating Nutrition Intake Quickly:QC/NQ) を開発した。その妥当性を検討する。QC/NQによるたんぱく質、食塩摂取量は蓄尿より求めた客観的数値に近く、栄養指導中に摂取量を評価するツールとして活用できる可能性が示唆された。木戸里佳、武内海歌、鞍田三貴
34. 2型糖尿病におけるアテローム硬化、濾過機能低下とアルブミン尿の関連	共	2015年05月22日	第58回日本糖尿病学会年次学術集会	2型糖尿病患者168名で、頸動脈IMTと6.3年間（中央値）のeGFRの変化をACR値別に検討した。eGFRの変化は線回帰分析で算出した。ACR \geq 30 mg/gと比較して10 mg/g未満の最大IMTは小さく (0.98 vs. 1.13 mm)、年次eGFR変化 (0.08 vs. -1.72 ml/min/1.73m ²) は高かった。さらに、5mg/g未満の最大IMTも小さく (0.95 mm)、年次eGFR変化 (-0.03 ml/min/1.73m ²) も高かった (すべてp<0.05)。できる限り低いACRの達成が濾過機能低下とアテローム硬化の進展予防に有用である可能性が示唆された。武内海歌、竹之内明子、坪井彩加、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏
35. 2型糖尿病では空腹時血糖 (FPG) の変動と食後TG (PTG) が腎症悪化の予知因子である	共	2015年05月22日	第58回日本糖尿病学会年次学術集会	2型糖尿病患者161名で、6.3年間（中央値）における腎症悪化 {腎症病期の進展あるいは尿アルブミン/クレアチニン比 (ACR) の倍増以上、20名} の予知因子を多重ロジスティック回帰分析で検討した。年齢、性、BMI、腹囲、喫煙、糖尿病罹病期間、糖尿病治療、降圧薬服用、脂質異常症薬服用、収縮期血圧、HbA1c、食後血糖、空腹時TGの平均と標準偏差 (SD)、FPG、LDLとHDLコレステロール、SD-PTG、log ACRとは独立して、PTG値 (オッズ比：1.013, p=0.001) とSD-FPG (オッズ比：1.036, p=0.04) が腎症悪化の予知因子であった。PTGの低下とFPGの変動の抑制が腎症悪化防止に有用である可能性が示された。北岡かおり、竹之内明子、坪井彩加、武内海歌、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏
36. 2型糖尿病において12か月のHbA1cの変動係数 (CV) は推算糸球体濾過量 (eGFR) の推移と関連した	共	2015年05月21日	第58回日本糖尿病学会年次学術集会	2型糖尿病患者168名の12か月間のHbA1cの平均値、CVと6.3年間（中央値）のeGFRの推移を重回帰分析で検討した。登録時のeGFR、年齢、性、BMI、腹囲、喫煙、糖尿病罹病期間、糖尿病治療、降圧薬服用、脂質異常症薬服用、12か月間の収縮期血圧、空腹時と食後の血糖とTG、LDL-C、HDL-Cの平均値とそのCV、12か月間の平均のHbA1cとは独立して、log (尿アルブミン/クレアチニン比) (標準化 β 、-0.193) とCV HbA1c (標準化 β 、-0.186) がeGFRの低下と関連した。アルブミン尿の改善とHbA1cの変動の抑制が濾過機能低下の防止に有用である可能性が示唆された。竹之内明子、坪井彩加、武内海歌、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏
37. 2型糖尿病において12か月のHbA1cの変動係数 (CV) は推算糸球体濾過量 (eGFR) の低下と直接関連した	共	2015年04月18日	第19回兵庫生活習慣病懇話会	外来2型糖尿病患者168名のHbA1cのCV (年間変動) とACR (Alb/Cre比) がeGFRの低下に相関した。竹之内明子、坪井彩加、武内海歌、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏
38. 結核排菌遅延に関与する栄養学的危険因子の抽出とその有用性の検討	共	2015年02月12日	第30回日本静脈経腸栄養学会 (NUTRI YOUNG INVESTIGATOR AWARD受賞講演)	入院時検査値から排菌遅延因子に関わる危険因子を抽出し、その有用性を検証する。男性は女性より有意に排菌が遅延した。栄養状態と排菌遅延の関連が示唆され、男性では低BMI、GIが、女性では低BMI、WBC増多が排菌遅延を予測できる危険因子であることが判明した。中辻晴香、初田和由、武内海歌、茨木まどか、佐々木由美子、香川智子、坂口充弘、鞍田

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
39. 高齢透析患者の栄養状態	共	2015年02月1 2日	第30回日本静脈経腸栄養学会（ポスター発表）	三貴、林清二 高齢透析患者の栄養状態および身体計測を行い、問題点を明らかにする。栄養指導依頼患者の50%が70歳以上であった。摂取量不足群は年齢に関わらず低栄養であった。食事を意識的に制限している症例が高頻度であった。織原茉祐花、武内海歌、宮本孝、鞍田三貴
40. 若年成人女性における食生活パターンと体脂肪の関係	共	2014年10月2 5日	第35回日本肥満学会（ポスター発表）	若年成人女性90名の体脂肪を測定した。食事と食行動により得られた59変数について主成分分析をし、主成分得点を特徴変量とするベクトルを各個体から抽出した。ベクトル量子化技術を用い3つの食生活パターン群を求めた。前記変数および体脂肪率について、群間で差があるか否かを多重比較検討した。特徴変量は9主成分が抽出された。Code 1はCode 2・3と比較して、代理摂食行動が有意に多く、摂取エネルギー量が有意に小さい値を示した。Code 2は、Code 1・3と比較して、食物繊維やn-3系多価不飽和脂肪酸等の摂取量が有意に大きい値を示した。Code 3は、Code 1・2と比較してNaや飽和脂肪酸等の摂取量が有意に大きい値を示した。Code 1・3の体脂肪率は、Code 2と比較して有意に大きい値を示した。食生活の内容が体脂肪率に影響を及ぼすことが明らかとなった。鞍田三貴、谷川千尋、谷崎典子、武内海歌、福尾恵介、高田健治
41. 高齢透析患者の栄養状態と問題点	共	2014年10月0 4日	第36回日本臨床栄養学会総会 第35回日本臨床栄養協会総会 第12回大連合大会	高齢透析患者の栄養状態および食事に対する意識調査を行い、問題点を明らかにする。透析専門病院から栄養指導依頼があった87例（年齢中央値69歳）を70歳以上未満、摂取エネルギー30以上未満で分類し、栄養諸指標、食事制限の有無と内容を比較検討した。摂取エネルギー30未満の症例は年齢にかかわらず低栄養であった。高齢透析患者の85%が意識的に食事制限をしていた。70歳上でも食事摂取量を維持すれば栄養状態は良好に保つ可能性が示唆された。食事を制限している症例が高頻度に見られ、透析患者の新たな問題点が見出された。 武内海歌、亀井こずえ、織原茉祐花、本荘裕美、松本みゆき、岩崎亮子、西庵良彦、宮本孝、鞍田三貴
42. 初回治療肺結核患者の早期陰性化を予測する入院時栄養因子	共	2014年02月2 8日	第29回日本静脈経腸栄養学会	退院基準である陰性化を予測する入院時栄養因子を検討した。単変量解析では男性、入院時BMI、A1b、CRP、HbA1c（NGSP）、RDA%energy、喀痰塗抹が抽出された。多変量解析ではHbA1c（NGSP）、BMI、CRPが抽出された。初回治療肺結核患者の入院時栄養アセスメントでは、多変量解析での指標が陰性化を予測できる可能性が示唆された。 武内海歌、鞍田三貴、大石幸男、初田和由、林清二
43. 結核発症、治療反応性と耐糖能異常、栄養の関連性の検討	共	2013年03月2 9日	第88回日本結核病学会	効率的な栄養介入のために、結核発症、排菌陰転化遅延に関連する危険因子を抽出した。耐糖能異常、体格、血清アルブミン値などの低栄養が結核発症と排菌遅延に密接な関連をみとめた。 林清二、武内海歌、佐々木由美子、香川智子、鞍田三貴
44. 肺結核症と排菌陰転化遅延に関連する指標の抽出	共	2013年02月2 2日	第28回日本静脈経腸栄養学会	結核発症と陰転化遅延する指標は男性では糖尿病合併が重要な因子であることが判明した。さらに女性に比べ低栄養状態を示す男性が多かった。女性ではc反応性たんぱくが陰転化に影響を与える因子であった。 初田和由、武内海歌、茨木まどか、大石幸男、金田和奈、濱出清美、宮崎美佳、佐々木由美子、香川智子、川口知哉、中山環、鞍田三貴、林清二
45. 経皮内視鏡的胃瘻造設術（PEG）施行患者の1年生存に関する術前栄養因子	共	2013年01月1 2日	第16回日本病態栄養学会	経皮内視鏡的胃瘻造設術（PEG）施行患者の1年生存に関する術前因子を検討した。PEG施行前の栄養補給方法は消化管を使用し、血清アルブミン値を維持することが予後に影響することが示唆された。 鞍田三貴、西真理絵、武内海歌、藤村真理子、廿日岩義宏、和田哲成、里中和廣
46. 神経筋疾患専門病院における経皮内視鏡的胃瘻造設術（PEG）施行患者の生存に関する術前因子	共	2013年01月1 2日	第16回日本病態栄養学会	経皮内視鏡的胃瘻造設術（PEG）施行患者において1年生存率と死亡群における施行前の栄養指標を比較し1年予後に関連する術前因子を検討した。1年予後に関連する術前因子は血清アルブミン値、ヘモグロビン、消化管使用栄養補給症例、紀節の有無であった。 西真理絵、武内海歌、鞍田三貴、藤村真理子、廿日岩義宏、和田哲成、里中和廣
47. 疾患別に見た経皮内視鏡的胃瘻増設術（PEG）施行患者の生存に関する術前栄養因子	共	2012年12月0 2日	第11回日本栄養改善学会近畿支部学術総会	神経筋疾患におけるPEG施行患者の生存に影響する術前栄養因子を抽出した。 西真理絵、武内海歌、鞍田三貴、福尾恵介、藤村真理子、廿日岩美宏、和田哲也、里中和廣

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
48. 血液透析間の体重増加率と栄養指標および食事摂取状況	共	2012年10月7日	第34回日本臨床栄養学会	透析間中1日の体重増加率3%以上未満に分類し、食事摂取状況について検討した。体重中1日体重増加率3%以上は53%、ガイドラインで求めた必要カロリーに対し不足と判断された者は69%であった。透析導入に至るまでの栄養指導経験症例が多いことから、制限の意識から離脱できず不適切な食事内容を助長させている可能性が示唆された。 鞍田三貴、内田絢子、山田恵理子、武内海歌、福尾恵介、水原陽子、本庄裕美、北風美保子、宮本孝
49. 結核患者の排菌陰転化遅延を予測する入院時栄養因子	共	2012年05月20日	第35回日本栄養アセスメント研究会	全対象の陰転化遅延を予測する栄養因子は、性別は男性、入院時体格（BMI）は18.5未満、血清アルブミン（A1b）値は3.5未満、炎症反応（CRP）は0.3以上、小野寺の予後指標（PNI）は40以下であり、塗抹割合は2+以上であった。49歳以下と50歳以上では、両群ともにBMIは18.5未満、A1b値は3.5未満、CRPは0.3以上、PNIは40以下、塗抹割合は2+以上が陰転化遅延を予測する因子であった。性別（男性）は50歳以上において陰転化遅延に関係していた。 武内海歌、鞍田三貴、初田和由、林清二
50. 地域連携、栄養治療システムの開発～武庫川栄養サポートステーション（NSS）の設立～	共	2012年02月24日	第27回日本静脈経腸栄養学会	武庫川女子大学栄養サポートステーション（NSS）を学内に設置した。NSSは、従来の栄養指導と異なる形式であり、患者の満足度も高い。高齢化が進むなかで増加し続ける慢性疾患に拍車をかけ地域医療に貢献できるものであり、医療人の育成にも有効である。今後さらに開業医との連携を図り、地域一体型栄養サポートチームを目指したい。 鞍田三貴、西真理絵、武内海歌、長島有花、正木志歩、谷崎典子、鈴木一永、鹿住敏、福尾恵介、難波光義
51. 認知症有無別にみたPEG施行前後の栄養状態と術後トラブルについて	共	2012年02月24日	第27回日本静脈経腸栄養学会	認知症の有無別にPEG後のトラブル発生の関連について検討した。非認知症PEG症例の術後アルブミンは低下を認めたが、術後トラブル発生、発熱発生頻度は認知症PEG症例が多い傾向にあった。しかし、術後早期死亡率に差は認めなかった。 鞍田三貴、森垣知美、武内海歌、福尾恵介、藤村真理子、内海繁敏、和田哲成、里中和廣
52. 初回治療結核患者の排菌陰転化遅延に関与する入院時栄養因子	共	2012年02月24日	第27回日本静脈経腸栄養学会（ワークショップ、アウトカム予測因子としての栄養アセスメント）	結核菌の陰転化遅延に関与する栄養指標は入院時体格（BMI）、血清アルブミン（A1b）、小野寺予後指標（PNI）、炎症反応（CRP）であり、50歳以上では性別も影響していた。結核患者の栄養アセスメントは、年齢、性別、BMI、A1b、CRP、排菌量を考慮することで陰転化遅延を予測できる可能性が示唆された。 武内海歌、鞍田三貴、福尾恵介、中野可奈子、中山環、大石幸男、初田和由、林清二
53. PEG施行患者の術前血清アルブミン値と術後トラブルの関係	共	2012年02月23日	第27回日本静脈経腸栄養学会	PEG施行患者の施行時の栄養状態を把握し、術後トラブル発生との関連について検討した。 神経筋疾患専門病院におけるPEG施行理由は嚥下困難が最も多く、術前の年齢や体格、疾患および術式とトラブル発生に関連は認めず、栄養指標が低値を示す症例はトラブル発生が高率であることが明らかとなり、施行前の栄養サポートチーム関与の重要性が示唆された。 藤村真理子、内海繁敏、和田哲成、里中和廣、森垣知美、武内海歌、福尾恵介、鞍田三貴
54. PEG施行患者の術前血清アルブミン値と術後トラブルの関係	共	2012年01月15日	第15回日本病態栄養学会	経皮内視鏡的胃瘻造設術（PEG）は施行前の血清アルブミン値とPEG術後合併症発生率の関係を検討した結果、PEG施行前の血清アルブミン値は短期生存率とは無関係であったが、施行後2週間の合併症発生に関係していた。 森垣知美、武内海歌、藤村真理子、内海繁敏、和田哲成、里中和廣、福尾恵介、鞍田三貴
55. 初回治療結核患者の入院時栄養状態	共	2012年01月15日	第15回日本病態栄養学会	初回治療肺結核患者の入院時栄養状態と食事摂取率を評価した結果、入院時血清アルブミン3.0g/dL未満の低栄養患者は19%にみられた。低栄養患者の割合は20年前と不変であり、栄養サポートチームが浸透した現代において十分な栄養管理がなされているとは言い難い。低栄養結核患者の早期栄養介入と栄養サポートチームの加算対象範囲拡大などの医療環境整備の必要性が示唆された。 武内海歌、鞍田三貴、中野可奈子、中山環、大石幸男、初田和由、林清二
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
	単			第12回国際高校生選別書展 毎日新聞社 優秀賞

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2015年4月～現在	兵庫県栄養士会
2. 2014年4月～現在	日本臨床栄養学会
3. 2011年8月～現在	日本静脈経腸栄養学会
4. 2011年8月～現在	日本病態栄養学会